

同志社大学における心理学教育小史

松 山 義 則

同志社大学は昭和2年(1927年)文学部に哲学科を設置した。そのなかに哲学専攻, 倫理学及教育学専攻, 心理学専攻の三専攻の設置認可を得たのである(昭和2年2月9日)。

同志社は明治8年(1875年), 新島襄によって官許同志社英学校として創設されたが, 当時の英学校の水準は旧制高校あるいはカレッジ・レベルであったと推定(井上勝也氏説)されるがその開学初頭から心理学は講ぜられていた。明治9年からは Davis 教授が性理学を, 明治14年からは Gordon 教授が心理学を講じていると記録されている。明治11年, はじめて「同志社概則」なるものが成文化されたが, その中につきのような箇所がある。

「一、当今教授スル所ノ学科ハ左ニ記ス」として列記した科目中に, 「性理学 ヘーブン」と書かれている。Joseph Haven, Mental Philosophy 1957 であろう。西周が「奚般氏著心理学」として訳出し, わが国における最初の心理学書となったものである。明治21年, 英学校規則書には第一年第一期に「新約聖書, 五時間, 英語学, 五時間, 心理学, 五時間」と記述されている。

明治22年に Buckley 教授が James Sully, Outlines of Psychology 1884 をテキストとして採用しているが, 当時としては斬新な心理学書が使用されていたといえよう。

元良勇次郎（1858—1912年）は、明治9年、同志社英学校に來り学んだが、このような当時の状況から考へてはじめて心理学のテキストに外国教師 Davis を通して接したものと考へられる。明治12年卒業、東京理科大学（東京帝国大学）の選科生となった。のち、ジョンズ・ホプキンス大学において、スタンレー・ホールに師事し、明治21年、東京帝国大学文科大学の精神物理学講師となり、翌年東大に心理学講座が設置され、わが国最初の心理学教授となったことは周知のところである。松本亦太郎（1865—1943年）は、明治15年、同郷の新島襄を慕い同志社英学校に入学したが、のち、東京帝国大学、イエール大学、ライプチヒ大学にすすみ、明治39年、京都帝国大学心理学初代教授に着任した。その在任中、同志社女子部教授を併任、特に明治44年から大学設立のため女子部の委員長となり、また法人理事、評議員として母校の教育のために力をつくした。

昭和2年、心理学専攻の設置において、その創設と育成とにつとめたのは本宮弥兵衛（1886—1957年、宮城県出身、文学博士）である。本宮ははじめ医学に志したが信仰を得て大正3年、同志社神学校卒業、のち、オベリン大学、つづいてイエール大学に学び、R. M. ヤーキズに師事し、M. A. を受領した。帰学後は、神学科において宗教心理学、宗教教育学を担当してきたが、哲学科心理学専攻設置に努力をかたむけ、心理学実験室の整備とその増強につとめ、心理学専攻学生の指導に力をつくした。本宮が20年近くにわたって整備をした実験室には防響室があり、当時としては最新の器械機具を質量ともに多く集めていた。初級実験にはティチナーのテキストを用い、それに応ずる器具が整えられていた。同志社大学の心理学研究室が現在所蔵する英独仏の専門雑誌のバックナンバーの一部は本宮によって収集されたものを基礎としている。実験室は、はじめ、今出川キャンパスの致遠館の北、神学館との間にあったが、のち、啓明館（旧図書館一階奥、現在のアメリカ研究所）に移転した。本宮は、心理学概論、実験

心理学、応用心理学、社会心理学、などを担当した。「リズム意識の運動に及ぼす影響」(1931)、「声波及言語の声波的構造に対する感情の影響」(1938年)、また「精神構造に関する組織心理学的研究」(1957年)などの研究成果があげられた。本宮は日本心理学会、関西心理学会、応用心理学会などでその成果を発表してきたが、昭和8年から9年にかけて、帝国学士院奨学金を受領し、リズム、言語、感情とそれに随伴する生理心理学的研究に没頭した。オーディオメーターによる基音振動数の測定、唾液および尿中の水素イオン濃度の測定を行うなど実験的研究をすすめたが、同時に「心理学は経験及行動を研究する経験科学であると云う事が出来るが、是等の研究を基礎として無理のない健全な論理を以って心理学の立場より精神観を立てる事が心理学の究極の任務であるやうに考えられる……」(昭和17年)と述べ、理論への関心をつよくもつ人でもあった。身体と精神の関係につねに留意し、ことに宗教心理学の観点から人間性への接近、その神秘さへの畏敬を忘れることがなかった。スポーツマンであり、音楽を愛し、よき教会人であり、柔和そのものの人柄は学生たちにとってまことに善きサマリヤ人であったといえよう。

本宮をたすけて心理学専攻の育成にあたったのは和田琳熊(1870—1944年、山口県出身)である。明治9年、元良勇次郎とともに同志社英学校に学んだ中島力造は、のち、東京帝国大学教授となったが、和田は中島力造に師事し、その推薦をうけて、東京帝国大学卒業後、明治33年、同志社に赴任した。和田はジョンズ・ホプキンス大学でスタンレー・ホールに師事し、帰学後は倫理学、心理学史、発生心理学などを担当したが、文学部長など学校行政にも手腕を発揮し、人望ある学者であった。スタンレー・ホールの「一心理学者のみたる基督」(1940年)の翻訳を行ない、「いかにも基督者らしい温厚な人柄と静かな学究的態度」をもつ人であった。

昭和16年、学制の改組が行われ、文学部は神学科と文化学科の2学科と

なり、文化学科には、哲学・倫理学専攻、心理学専攻、英語・英文学専攻、文芸学専攻、厚生学専攻が設置され、本宮のもとに心理学専攻は運営された。戦争の激化とともに、学制の縮小を余儀なくされ、昭和19年、同志社大学は法文学部の単一学部となって終戦をむかえたのである。昭和19年から昭和23年、新制大学の発足するまでの間は、心理学専攻にとっては受難の時期といってよい。戦時下、学生は大学を去り経営事情からも専攻を閉鎖せざるを得なくなった。その後、本宮は神学科教授となったが、戦後復員した学生を専攻不在のなかで指導の任に自らあたったのである。

昭和21年、同志社大学は文学部と法経学部の2学部にて再編し、再出発のあかるさを取りもどした。文学部は神学科、英文学科、文化学科、社会学科の4学科編成となった。しかしながら、当時における学内事情は文化学科が哲学、美学、文化史学を統合した教育理念を先導的にかかげ、その三つの柱をもって組織されたため、心理学はその教育理念のもとでは副次的なものとならざるをえず、また本宮は文化学科教授に復帰することができなかったのである。この間においてはたかだか心理学概論、文化心理学などが設置されていたにすぎない。しかしながら、学生のなかにはこのような事情のもとにおいても心理学を専攻する者がいた。当時の第三高等学校教授佐藤幸治は、客員教授としてその間の指導にあたった。

昭和23年、同志社大学は戦後わが国の高等教育制度の改変にともなって新制大学として体制をととのえた。4学部編制となり、翌24年、商学部、工学部を加えて現在の6学部組織が確立した。文学部は英文学科、文化学科、社会学科の3学科となり、文化学科のなかに、哲学及倫理学専攻、教育学及心理学専攻、美学及芸術学専攻、文化史学専攻の4専攻が設置され、心理学専攻は数年の苦渋のちに再出発することができたのである。これが可能になったのは戦後教育の文部省の指導と、教職課程の設置の必要、そして心理学専攻卒業生の復活の要望に文化学科教授会が答えざるをえな

かったことによるであろう。教育学及心理学専攻再出発当初の履修科目は、哲学、倫理学、美学などの共通科目が多く、その上、教育学と心理学の両科目が必修させられていた。専攻の成立には実験心理学と心理学実験演習とは必ず設置するようにとの行政指導をうけており、かつての文化学科がえがいた独自の教育理念からはことなるものとなったのである。新制度のもとで心理学専攻が再出発した翌昭和24年、関西大学専門部長であった遠藤汪吉が教授として着任した。

遠藤はその後の心理学専攻の発展につとめ、実験室の整備増強、教授陣の完備、大学院の設置などに向けて努力をかたむけその功績はまことに大である。実験室は、本宮の設置した啓明館から、北寮あと、現在の大会館に移り、つづいて運動場の北、当時の同工館、現在の博遠館にかわり、さらに、旧学生会館、現在の至誠館の地に移った。そして至誠館建設のために移転し、現在は寧靜館、一階、地下の一部、啓明館四階と五階に分散したままである。大学院は昭和25年、文学研究科哲学専攻のなかに心理学は一科目として設置されたが、昭和36年独立して心理学専攻の修士課程の設置認可を得、昭和39年に博士課程の設置が行われた。昭和23年に出発した教育学及心理学専攻は年を追うとともに両専攻ともに設置科目を増強し、ついに昭和42年、両専攻の分離が行われた。遠藤は心理学専攻の教育と研究体制の発展に寄与しその確立をなしとげるとともに、文学部長、大学長代行として全学的にも行政的手腕を発揮した。遠藤汪吉（同志社大学名誉教授、追手門学院長、追手門学院大学長、文学博士）は、昭和8年、京都帝国大学卒業後、兵庫県立教育研究所、関西大学教授を経て、日本心理学会理事などを歴任、実験心理学、臨床心理学、人格心理学、教育心理学など幅広く担当して多大の感化を戦後の学生にあたえたのである。主著として、性格学、教育心理学、教育心理学特論、動機論などをあげることができる。

前述したように、同志社英学校時代に講ぜられた心理学のテキストや教授が誰であったなどについては将来の調査研究にまたねばならないが、予科、女子部などには心理学を担当した教授に二宮源兵、松本亦太郎、今谷逸之助、加藤謙爾などの名をあげることができる。また戦後、大学予科、教養学部教授として宇阪良二（名大教授、文学博士）が心理学を担当された。昭和2年、心理学専攻設置以降、昭和20年までの間、嘱託講師として来学され指導にあたえられた国公立大学の方々は次のようである。昭和3年、岩井勝次郎（京大）、昭和5年、岡道固（京大）、昭和9年、鈴木信（京大）、昭和11、14年、園原太郎（京大）、昭和14、17年、小谷庄四郎（京府医大）、昭和16、17、19年、野上俊夫（京大）（同志社は教授として遇している）。昭和17年、南条正明（京大）、昭和18、19年、佐藤幸治（三高）。

昭和21年以降、来学下された嘱託講師の方々は、荒木辰之助（京大）、林保（京教大）、飯塚礼二（京府医大）、今田寛（関学大）、一谷彊（京教大）、岩瀬善彦（京府医大）、柿崎祐一（京大）、神戸忠夫（京府大）、加藤伸勝（京府医）、川口勇（阪大）、前田嘉明（阪大）、本吉良治（京大）、村上仁（京大）、中井斌（京大）、西山市三（京大）、岡本春一（京大）、岡本夏木（京教大）、宇阪良二（京大）、小谷庄四郎（京府医大）、佐治守夫（東大）、関口茂久（滋大）、住田勝美（京教大）、田伏淳一郎（京大）、田中正武（京大）、梅本堯夫（京大）、八木晃（京大）、山松質文（大市大）、山本昭二郎（大阪見相）である。

現在の心理学専攻専任教員はつぎの通りである。松山義則（教授、文学博士）、昭和20年同志社大学卒業後、副手、助手、講師、助教授を歴任、セント州立大学、イェール大学に留学、実験心理学を担当。野辺地正之（教授、教育学博士（京都大学））、昭和21年同志社大学卒業後、国立教育研究所を経て昭和25年助手として着任、講師、助教授を歴任してミシガン大学に留学、青年心理学、児童心理学などを担当。浜治世（教授、M. A.（ノースキ

ャロライナ大学), 文学博士(同志社大学)), 昭和26年同志社大学卒業後, 助手, 講師, 助教授を経て, ノースキャロライナ大学に留学。のち, ロックフェラー大学客員教授となり, 臨床心理学を担当, 実験異常心理学を専攻。小嶋外弘(教授), 昭和27年名古屋大学卒業後, 鹿児島大学助教授を経て昭和38年同志社大学助教授に着任, 産業心理学担当, 消費者行動の心理学などを専攻。秋田清(教授, 文学修士(大阪大学)), 昭和28年同志社大学卒業後, 大阪大学大学院修了, 昭和33年同志社大学助手に着任し講師, 助教授を歴任, 実験社会心理学を担当, 言語学習を専攻する。山内弘継(教授, M. Ed. (トロント大学)), 昭和32年京都学芸大学卒業後, 昭和35年, 同教育学専攻科修了, 昭和37年同志社大学大学院に入学, 昭和38年, 京都学芸大学助手に着任, 同助教授を経て, 昭和47年同志社大学助教授に着任, トロント大学修士課程を修了する。教育測定法, 人格心理学を担当, 達成動機について専攻する。橋本宰(助教授, 文学修士(同志社大学)), 昭和35年同志社大学卒業後, 昭和46年同志社大学博士課程修了, 昭和44年聖母女学院短大講師を経て昭和49年同志社大学助教授に着任, ノースキャロライナ大学に留学, 心理学特論を担当, 心臓血管系を指標として感情異常研究を行う。岡市広成(助教授, 文学修士(同志社大学), M. A. (マックマスター大学)), 昭和41年同志社大学卒業, 昭和43年同大学院修士課程修了後助手に着任し講師を経てマックマスター大学に留学。心理学特論を担当, 生理心理学ことに海馬研究を行う。

なお女子大学教授は現在, 渡辺英一(昭和17年同志社大学卒業)と深田尚彦(昭和25年同志社大学卒業)である。

心理学専攻が設置された昭和2年, 文化学科心理学専攻として改組された昭和16年, 新制大学発足による文化学科教育学及心理学専攻としての昭和23年と現行の履修科目表を参考のために収録した。

追記 この同志社大学における心理学教育小史はもとより完全ではない。昭和53年8月、開設以来51年を経たので、同志社大学心理学研究室50周年記念を催した。この機会に手近かにある資料をもとにまとめたものである。参考資料はつぎの通りである。

同志社九十年小史 同志社 昭和40年

日本の教育、学術に貢献した同志社先輩の略歴 同志社社史史料編集所
昭和45年

同志社大学の沿革図解 同志社大学教務部 昭和47年

同志社大学職員及学生名簿 同志社大学 昭和2年以降

同志社大学学則 同志社大学 昭和2年以降

心理学史 今田恵 昭和37年

同志社社史史料編集所主任 河野仁昭氏，教務部学事課長，津崎秋男氏
はじめ職員の方々のご好意に謝意を表します。

(昭和53年8月)

履修科目表

昭和2年 心理学専攻

普通講義科目		
科 目	単 位	週 時 数
哲学	1	2
西洋哲学史	2	5
支那哲学史	1	2
倫理学	1	2
心理学	1	2
教育学及教授法	2	4
美学	1	2
宗教学	1	2
社会学	1	2
計	11	23
特殊講義科目		
心理学	4	8
教育学及教育史	2	4
演習	1	2
外国書講読	2	4
選択科目		
他専攻の特殊講義, 神学, 法理学, 政治学, 経済学, 社会思想史, 美術史, 文学概論, 英文学, 英語, 言語学, 古典語 (ギリキ, ラテン)	4	8
計	13	26
総 計	24	49

履修科目表

昭和16年 心理学専攻

必修科目

科 目	単 位	週 時 数
哲学概論	1	2
倫理学概論	1	2
心理学概論	1	2
美学概論	1	2
厚生事業学原理	1	2
支那哲学	1	2
印度哲学又ハ宗教学概論	1	2
教育学及教授法	2	4
外国語(英一, 独二)	3	6
西洋哲学史	3	4
論理学及認識論	1	2
心理学特殊講義	2	4
心理学演習	2	4
心理学選択	3	6
心理学実験	1	2
日本精神史	1	2
社会学概論	1	2
基督教通論	1	2
基督教文学	1	2
計	27	54
卒業論文	1	

選択科目

心理学史, 社会心理学, 民族心理学, 文化心理学, 発生心理学, 宗教心理学, 応用心理学, 教育心理学, 精神病理学, 生理学, 国民教育学研究, 教育史, 宗教教育学, 社会教育学, 教育学演習

随意科目

ギリシャ語, ラテン語, 支那語

履修科目表

昭和23年 教育学及心理学専攻

共通必修科目		
科 目	単 位	週 時 数
哲学概論	4	2
倫理学概論	4	2
教育学概論	4	2
心理学概論	4	2
美学概論	4	2
社会学概論	4	2
文化史学概論	4	2
日本文化史概論	4	2
西洋文化史概論	4	2
外国書講読(独又ハ仏)	8	4
演習	4	2
計	48	24
専攻必修科目		
教育心理学	4	2
教育史概説	4	2
教授法	4	2
実験心理学	4	2
心理学実験演習	4	2
教育学特講	4	2
心理学特講	4	2
計	28	14
選択科目		
歴史哲学	4	2
宗教哲学	4	2
人間学	4	2
社会心理学	4	2
文化社会学	4	2
文化心理学	4	2
日本芸術史	4	2

日本文学史		4		2
文芸学概論		4		2
教育社会学		4		2
他専攻科目及び選択科目中2科目8単位以上				
随意科目 古典語（希・羅）				
		40		20
教育学及心理学専攻	科目	単位	時間	
	20	84	42	
	卒業論文			

履 修 科 目 表

昭和53年現在 心理学専攻

年 次	授業科目・クラス	期 間 時 間	単 位	摘 要
1年次 必修科目	心理学実験演習 I	通 2	2	
2年次 必修科目	心理学概論	通 2	4	
	心理学特論 I	通 2	2	
	心理学実験演習 II	通 2	2	
	臨床心理学実習 I	後 4	2	
	教育測定法	通 2	4	
3年次 必修科目	実験心理学	通 2	4	
	心理学実験演習 III	通 2	2	
	心理学特論 II	通 2	4	
	独書講読 A	前 2	2	
	独書講読 B	後 2	2	
4年次 必修科目	演 習 卒業論文	通 2	4 12	
選択科目 I (2・3・4 年次)	心理学特論 III	通 2	4	左記選択科目 I から24単位を履 修すること。
	大脳生理学	前 2	2	
	遺伝学	後 2	2	
	臨床心理学実習 II	前 4	2	
	児童心理学	通 2	4	
	青年心理学	通 2	4	
	臨床心理学	通 2	4	
	人格心理学	通 2	4	
	実験社会心理学	通 2	4	
	産業心理学	通 2	4	
選択科目 II (2・3・4 年次)	教育学概論	通 2	4	左記選択科目 II および選択科目 Iから8単位以 上を選択履修す ること。
	哲学概論	通 2	4	
	倫理学概論	通 2	4	
	美学概論	通 2	4	
	社会学概論	通 2	4	
	文化史学概論	通 2	4	

日本文化史概説	通	2	4
西洋文化史概説	通	2	4
他学科・他専攻科目	通	2	4
